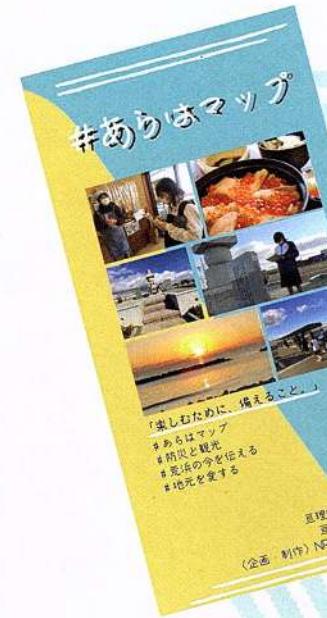


唯一無二の防災・観光マップを制作

班ごとに、それぞれの取材先に向かった生徒たちは、「震災のときの被害を教えてください。おすすめポイントを教えてください。」などと自分たちの言葉で礼儀正しく取材したほか、避難経路や避難場所について詳しく確認しました。また、構図を考えながら何度も写真を撮影しました。

防災への思いを

地域で共有



取材先の決定・取材申し込み



始めに、生徒たちは荒浜地区の防災拠点や観光拠点について、班ごとに分かれ意見を出し合い、取材先を決定しました。また取材の申し込みでは、生徒たち自らが電話で、取材の申し込みをしました。初めての経験に緊張しながら電話を終えた生徒たちは、緊張から解放され「終わつた」と話し笑顔を見せていました。

情報集約・中間発表



取材した内容をもとに、みんなで話し合い、何度も修正を加えながら防災拠点や観光拠点についてのキヤッチフレーズや紹介文を作成。その後、作成したもの班ごとに発表を行い、あらはマップに掲載する内容の共通理解をはかりました。



荒浜の魅力を再発見

この活動をとおして、郷土荒浜の魅力を再発見することができます。また、今後は荒浜に観光で訪れた皆さんを案内したり、話かけられる存在になっていきます。私たちが制作した「あらはマップ」を手にして、荒浜に訪れた観光客の皆さんのが観光を楽しんでもらえたらとても嬉しいです。



生徒会長
木村 心咲さん

4 完成・披露



荒浜中学校で防災集会が開催され、生徒たちが、班ごとにマップへ掲載した各拠点の内容や活動をとおした感想について、「日頃から災害に備える大切なことを再認識しました。」などと自分たちの言葉で堂々と発表しました。

5 御礼・贈呈



「ご協力ありがとうございました。もし災害が発生した際はこのマップを参考にしてください。」とハキハキとした口調で各店舗などに御礼および完成の報告をした生徒たち。「活動をとおして地域のみなさんの温かさを感じました。」と話しました。子どもたちが一生懸命作成し完成させた子どもには、防災と魅力の情報だけにとどまらず、協力してくれた地域のみなさんとの地元への強い思いも込められています。みなさんも、この機会に防災に対する備えの再確認と、自分のとつておきの旦理の情報を世界へ向けて発信してみませんか。



▶ 完成したあらはマップ。荒浜地区にある緊急一時避難場所や各店舗などが掲載されています。各店舗のキャッチフレーズや紹介文などは生徒が自筆したものです。

荒浜への愛着をより深めるきっかけに



NPO法人海族DMC
代表 太見 洋介氏

生徒たちが一から考え行つた取材や発表などの経験をとおして、震災当時の状況や、震災から復興への道のりを学び、改めて地元への愛着を深めるきっかけになつてくれたら嬉しいです。

生徒たちは、これからも震災の恐ろしさと、そこから復興を遂げた荒浜地区の姿を未来に伝えていってほしいと思います。

本マップは、マップ掲載店舗、役場、鳥の海スマートセンター、エンジ、FMあおぞらなどに設置されています。